

令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）充当事業の検証について

No.	1	事業名 (計画年度)	スマートプラットフォーム構築 事業 (令和5年度)	担当課	行革・DX推進課
総合戦略の 位置づけ		基本目標	4 「まち」づくり		
		施策の基本的方向	効率的な行財政運営の推進		
事業概要		現在、各種手続の案内や申請等は市ホームページに掲載しているが、オンライン申請ができる手続については、別の電子申請システム専用ページを案内しており、市民にとっては手続の内容に応じて入口が複数ある状態である。そこで、オンライン上での窓口を市公式 LINE に一本化し、市民がスマートフォン等によりワンストップで市役所へ手続や相談等ができる「スマホ市役所」の環境を整備するため、本事業において、それらのプラットフォームを構築する。			
令和6年度 総事業費		3,758,000 円	交付金の種類 (補助率)	デジタル実装タイプ (1／2)	
主な取組		1 公式 LINE を入口とした行政サービスの提供 2 行政手続のオンライン申請環境の整備 3 年齢、居住地域等に応じた情報発信 4 市民向けアンケート機能の実装			
重要業績評価指標 (KPI) ①		指標	市公式 LINE 友だち累計数		
		目標値 (R6)	10,000 人		
		実績値 (R6)	13,376 人		
重要業績評価指標 (KPI) ②		指標	電子申請可能な手続数		
		目標値 (R6)	80 件		
		実績値 (R6)	174 件		
重要業績評価指標 (KPI) ③		指標	市公式 LINE による情報発信件数		
		目標値 (R6)	220 件		
		実績値 (R6)	410 件		

重要業績評価指標（KPI）④	指標	手続件数に対する電子申請割合
	目標値（R6）	10%
	実績値（R6）	34%
重要業績評価指標（KPI）⑤	指標	市公式 LINE の満足度
	目標値（R6）	3.5 ポイント
	実績値（R6）	3.6 ポイント
重要業績評価指標（KPI）⑥	指標	市民意識調査の結果
	目標値（R6）	5 ポイント
	実績値（R6）	未計測（2024 年度の渋川市市民意識調査を実施しなかったため。）
事業効果 ※選択肢 ① 地方創生に非常に効果的であった ② 地方創生に相当程度効果があった ③ 地方創生に効果があった ④ 地方創生に対して効果がなかった		②地方創生に相当程度効果があった
事業効果の 選択理由等	本事業は、市公式 LINE を核にしたプラットフォームを構築することで、居住地域、年齢等セグメントに応じた行政情報を届けるとともに、さまざまな行政手続きをオンライン化することができた。令和 6 年度においては、公立保育所等の保護者を対象に市公式 LINE に欠席連絡機能を付加したことで市民サービスの向上に大きく寄与した。 本事業で構築したプラットフォームを活用し地方創生の取組を推進するとともに、実績値を計測した KPI について、導入後 2 年度目の目標を達成できていることから、「②地方創生に相当程度効果があった」とした。	

実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※選択肢 ① 追加等更に発展させる ② 事業の見直し(改善) ③ 事業の継続 ④ 事業の中止 ⑤ 予定どおり事業終了		③事業の継続
	理由	初年度に続き、2年度目の目標値も達成しており、順調に事業を実施できていることから、継続して事業を実施する。 市公式 LINE の登録者数は順調に増加しているが特定の世代で登録率が伸び悩んでいるので、今後は、市公式 LINE の機能を様々な分野で拡充し、多くの市民が利用しやすい、利用したいと思える「スマホ市役所」の環境を整備する。	
外部有識者からの評価	事業の評価	地方版総合戦略の KPI 達成に有効であった	○
		地方版総合戦略の KPI 達成に有効とは言えなかった	
外部有識者からの評価	外部有識者からの意見	市公式 LINE の登録者数は順調に増加しており、電子申請可能な手続数や手続件数に対する電子申請割合も伸びていることから、行政サービスの向上に寄与していると考えられる。 市公式 LINE が、市と市民をつなぐ重要なツールであると同時に、今後さまざまな施策においても、DX 化を推進するためのハブとなることが期待される。	